

消費・流通対策の拡大

漁協のE・HACCP認証取得にむけた取り組みを促進するなど、水揚げから加工・流通に至る衛生管理や鮮度・品質の保持を地域ぐるみで進め、雄武ブランドの付加価値を高めます。

また、効果的な販売戦略を創意・工夫し、消費の拡大につなげます。

さらに、消費者に対する理解をさらに深めるために、水揚げや水産加工の見学・体験、漁港でのソフト的な取り組みなども展開していきます。

※HACCP（ハサップ）：原料の入荷から製造、出荷までの全ての工程において、危害を防止するための重要な工程を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録（モニタリング）し、異常が認められた時点で対策を取り、問題を解決する衛生管理手法。主に最終製品の抜き取り検査によって行う従来型の衛生管理手法と対比される。

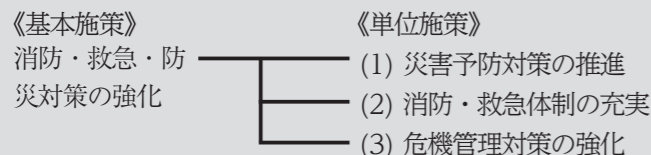
消防・救急・防災対策の強化

消防・救急・防災対策をとりまく環境

本町では、昭和29年、47年に2度の大火を経験するとともに、風水害や雪害による建物の倒壊・浸水等も頻繁に生じています。また、東日本大震災では、想定外の規模の災害がどこでも起こりうるものが改めて認識されました。オホーツク海沿岸は、目立った地震活動がなく、災害が比較的少ない地域と言われてきましたが、震度7クラスの直下型地震や10メートル級の津波、雄武川や幌内川の氾濫危険水位を超える豪雨などは、現実には起こりうるものと考え、「減災」の視点に立って、対策を講じていく必要があります。

近年も、住宅が全焼する火災等が発生しており、町民への火災予防の一層の啓発が求められるとともに、今後も、消防・救急需要の多様化を受けて、広大な町域をカバーする体制の確保や、町外搬送体制の一層の強化、船舶事故対策などが重要です。

基本施策の体系



単位施策の紹介

災害予防対策の推進

大規模災害が起こっても、広域的な応援を得ながら、情報伝達や避難、応援要請、医療救護、避難所運営、被害調査と応急復旧など必要な応急対策を迅速・的確に実施できるよう、研修・訓練等を通じて、町民・行政職員の防災意識を高め、知識・技術を普及します。

また、地区や事業所での自主防災組織の構築および育成、災害時要配慮者一人ひとりへの個別支援の体制づくり、防災対策工事の推進など必要な予防対策事業を進めるとともに、災害時における通常行政事務を継続・再開するための「業務継続計画（BCP）」の策定・運用を進めます。

計画書の全体は町ホームページで公開しています。

なお、希望される人には、基本構想と前期基本計画の冊子を郵送します。



町財務企画課企画調整係

28年度実績	→	34年度目標
【防災訓練の年間実施回数】		
0回	↗	1回
【自主防災組織数】		
2組織	↗	29組織
【消防団員数】		
108人	→	108人
【消防団員の年間訓練回数】		
2回	→	2回
【救急救命士数】		
8人	→	8人

～郷土愛で築く～「おうむ」次世代躍進プラン

第6期雄武町総合計画

◎第6期雄武町総合計画の施策ごとの計画内容についてシリーズで紹介します

5月号では、第6期雄武町総合計画の概要を、6月号からは施策ごとの計画内容を全10回のシリーズで紹介しています。今号は第3回目で「基本施策③水産業の振興」と「基本施策⑦消防・救急・防災体制の強化」について紹介していきます。

水産業の振興

水産業をとりまく環境の変化

ホタテ、サケ・マス、毛ガニなど豊かな水産資源に恵まれた本町の水産業の発展は、水産加工業など関連産業への波及効果も大きく、「確かな地域力」で町を牽引していくために極めて重要です。

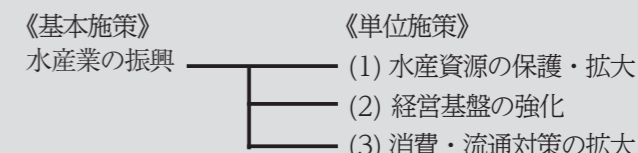
平成26年12月の低気圧被害によるホタテの大幅減産、平成28・29年のサケ等の不漁に伴い、地域経済の不安定化が生じているものの、長期的には、海外需要の急増による魚価の大幅な上昇が見込まれ、地域経済に追い風が吹いています。

この間、各漁港や関連施設の整備を進めたことにより、漁業生産性は着実に向上し、漁業生産額は10年前の1.5倍程度に増加しています。

今後は、これまでの成果を継承しながら、「つくり育てる漁業」を基軸に、安定した漁獲と水産資源の保護・増大を進めるとともに、HACCP対応施設の整備を促進するなど、地域ブランドとしての格を一層向上させていくことが期待されます。



基本施策の体系



単位施策の紹介

水産資源の保護・拡大

漁協などと連携しながら、貝殻散布や有害生物駆除などによるホタテ漁場の安定化、藻場造成による餌料環境の向上を図り、コンブ、ウニや根付魚類など水産資源の増大を図ります。また、カニ類などの資源管理を徹底するとともに、ホタテ稚貝放流やナマコの増殖試験調査などの取り組みを進めます。

28年度実績	→	34年度目標
【漁業生産額】		
48億円	↗	70億円
【ホタテ生産量】		
11,266 t (25～28年度平均)	↗	18,000 t
【サケ・マス漁獲量】		
3,064 t (25～28年度平均)	↘	2,200 t
【漁業経営者数※】		
108人	→	108人

※雄武漁業協同組合員数